

# ハイブリッド・マルチクラウド時代の クラウド戦略策定

クラウド戦略策定に関するビジネス・インパクト・ブリーフ 3 回シリーズの第 1 回です。第 2 回では、ワークロードの移行と再配置に必要なものについて取り上げます。最終回では、ハイブリッド・マルチクラウド IT アーキテクチャ全体で、ビジネスプロセスを効率的に自動化する方法について説明します。

## 451 の見解

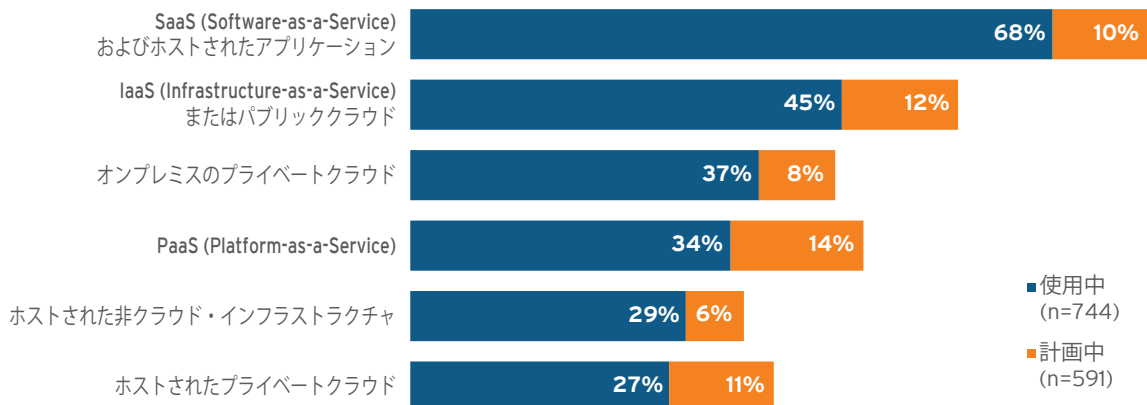
デジタルビジネスを追求するエンタープライズは、高い可搬性を持つワークロードを最適な実行場所 (BEV: オンプレミスのインフラストラクチャ、パブリッククラウド、プライベートクラウドなど) にデプロイするための包括的で統一された手法を作成し、現在のハイブリッド IT アーキテクチャ全体でビジネス継続性を管理することを、IT ベンダーに求めます。さまざまなクラウドサービスの価格やパフォーマンスの利点を活用するためにワークロードを移動させると、ワークロードと実行場所の特性評価、データとアプリケーションの統合、分散型ビジネスプロセスのオーケストレーションの現在の手法には課題が生じます。IT インフラストラクチャ分析と戦略計画には、新しいツールと技術が必要です。現在の市場には成熟した製品はまだありませんが、これらの問題に対処する最善の方法は、ハイブリッド・マルチクラウドの顧客エンゲージメントを担う IT ベンダーの製品管理チームやプロフェッショナル・サービス・チームに見出すことができるでしょう。

IT 組織が、データセンターや少数のホステッドサービス・プロバイダーおよびマネージドサービス・プロバイダーだけを管理していればいい時代はもう終わりました。常に不足に悩まされている基幹業務チームや気の短い IT 開発者は、リソースの制約を克服し、経済性や生産性の利点を活用するために SaaS、IaaS、PaaS クラウドを調達しており、その傾向は図 1 のグラフに表れています。最近のアンケートで、744 の企業と IT 意思決定者に、現在使用しているクラウドまたはホステッドサービスの種類と、今後 12 カ月間のプランについて訊きました。

## 着実に定着、成長するマルチクラウド

出典：451 Research 企業アンケート：クラウド、ホスティングサービスとマネージドサービス、組織のダイナミクス 2018 年

使用中および計画中のクラウドおよびホスティングサービス  
回答者の割合 (企業規模別)



SaaS、IaaS、および PaaS の需要は増え続けており、次に増えているのが、オンプレミスのプライベートクラウド・インフラストラクチャの必要性です。実際、コンテナおよびマイクロサービス・アーキテクチャへの移行や新たな IoT イニシアチブなど、その他の IT トレンドによって、さまざまな IT アーキテクチャの選択肢 (そして潜在的な混乱) が増えています。

451 Research は、情報テクノロジー分野における優れたリサーチ・アドバイザリー企業です。テクノロジーのイノベーションと破壊的革新に焦点を当て、デジタル経済のリーダーに不可欠な洞察を提供します。120 人以上のアナリストやコンサルタントを有しており、北米、ヨーロッパ、そして世界中で 1,000 を超えるクライアント組織に同時配信されるリサーチ、アドバイザリーサービス、ライブイベントを通してその洞察を提供しています。451 Research の本社はニューヨークにあり、451 Group の 1 部署として 2000 年に設立されました。

## 451 の見解 (続き)

そして、そのようなオンプレミスおよびオフプレミスの場では常に、相互運用やデータ交換ができなくてはならず、分散型ビジネスプロセス実行のサポートも必須です。これは、すべてのエンタープライズが習得すべき設計である、最新のハイブリッド・マルチクラウド IT アーキテクチャの役割ですが、それには合理的なクラウド戦略を必要とします。その習得において、戦略策定者が考慮すべき 2 つの基本的なポイントがあります。

### 1. どのような条件の下、どの実行場所でのワークロードを実行するか

この条件を決めるには、ワークロードの特性、およびさまざまな実行場所の（コスト以外も含めた）機能を理解していなければなりません。それにより、ワークロードを賢く BEV にマッピングし、BEV 全体のワークロードを移行、監視、管理できるようになります。場合によっては、データとロジックの再配布も必要になるかもしれません。たとえば、コア/フォグ/エッジ IoT アーキテクチャでは、ロジックを計算する場所、つまりコア（クラウド）、フォグ（ノード）、エッジ（デバイス）をインテリジェントかつ動的に選択してシフトする方法と、移動中のデータを最小限に抑える方法が問題になり、戦略立案者はこれに対する回答を準備しておく必要があります。

### 2. どのような条件の下、ロジックをデータに、またはデータをロジックに移動するか

この条件を決めるには、コストにとどまらず、多くの複雑な変動要因を詳細に分析しなければなりません。さまざまなワークロードの BEV を決定し、移行戦略を導くためのデータに基づいた分析とプランニングを支援する新しいツールとサービスが必要です。これは、統合インフラストラクチャ管理 (UIM) プラットフォームと呼ばれる次世代のインフラストラクチャおよびクラウド管理システムの導入を促進することになるでしょう。UIM は、インテリジェントな価格およびパフォーマンス分析機能を備えており、BEV へのワークロード移行を可能にする自動化ツールを内包していることもあります。

UIM 市場は発展途上であり、プランニングや分析のためのツールもまだ初期段階にあります。当面の最善策は、ワークロード開発、デプロイ、ハイブリッドクラウド管理の自動化に精通した、信頼できる IT ベンダーのプロフェッショナルサービスチームや製品開発チームと連携することでしょう。

## ビジネスへのインパクト

**エンタープライズ** ビジネス意思決定者および IT 意思決定者は、複数の実行場所の構成と各実行場所間でのワークロード分散について、より戦略的に考え始めるべきです。上記で提示した設問に対して、データに基づいた答えを出すことが最優先事項です。

**ビジネス上の成果** コアになるワークロードの運用要件を、分散実行場所の価格やパフォーマンスの特性と体系的に比較再検討することにより、営業利益率を向上し、そうしたことを実施していない競合他社に対して競争上の優位性を生み出すことができます。

**市場への影響** 現在使用されている IT インフラストラクチャとクラウド管理プラットフォームは、ハイブリッド・マルチクラウド管理やハイブリッド IT アーキテクチャを十分に活用するために必要な戦略計画ツールをほとんど考慮せずに設計されています。先進的な UIM プラットフォームはまだ開発途上にあります。実用的な UIM を利用できるようになるまでの間は、ハイブリッド IT アーキテクチャの設計とデプロイに精通したプロフェッショナル・サービス・チームの専門知識が不足をカバーします。

## 将来に備える

次世代の UIM プラットフォームを構築するには、入念な事前準備が必要です。このプラットフォームは上述の戦略計画についての設問に回答を呈することができるものでなくてはならず、また、エンタープライズがデータに基づく意思決定機能を使用してインテリジェントにクラウド戦略を導入し、適応していけるよう支援できるものでなければなりません。そして、複数の実行場所（データセンター、マルチクラウド、マネージドサービス）にわたってワークロードを移行および管理し、これらの分散アーキテクチャ全体でデータとロジックの配置を管理する手法を提供するか、少なくともサポートする必要があります。それについては、次回のビジネス・インパクト・ブリーフで説明します。



ビジネス要求に基づいてインフラストラクチャを自由に選択できるように、ハイブリッド・アーキテクチャおよびマルチクラウド・アーキテクチャの導入を計画する組織が増えています。[Red Hat® サービスプログラム：ハイブリッドおよびマルチクラウドの導入](#) は、顧客によるリスク管理、総所有コストの削減、スタッフのスキル開発、アジリティの向上に役立つオープン仮想化、コンテナ、IaaS (Infrastructure-as-a-Service) を確立および/または移行するための段階的なアプローチを提供します。